



南房総の風



[発行]
南房総教育事務所
令和6年12月12日
第19号
文責：教育課程班

カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

各学校においてはカリキュラム・マネジメントに努めることが求められています。学習指導要領に示された内容によると、カリキュラム・マネジメントとは以下のように捉えることができます。

児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図ること。

また、カリキュラム・マネジメントは以下の3つの側面を通して行うこととされています。

- ① 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

今回の「南房総の風」では、教育課程の組み立てや改善を図っていくための例を紹介します。

＜例1＞年間指導計画の工夫

あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力（言語能力 情報活用能力 問題発見・解決能力）や、現代的諸課題に対応していくための資質・能力の育成が求められています。

各学校の年間指導計画を作成する際、以下のような表を作成することで、各教科等の枠組みを越えた資質・能力の育成を意識して指導することができます。

また、もともとある年間指導計画に育成したい資質・能力を追記し、指導に生かすことも考えられます。

育てたい力	言語能力				情報活用能力				問題発見・解決能力			
小学4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	****	****	****	****		****	****	****	****	****	****	****
社会	****	****	****	****		****	****	****	****	****	****	****
〇〇	****	****	****	****		****	****	****	****	****	****	****

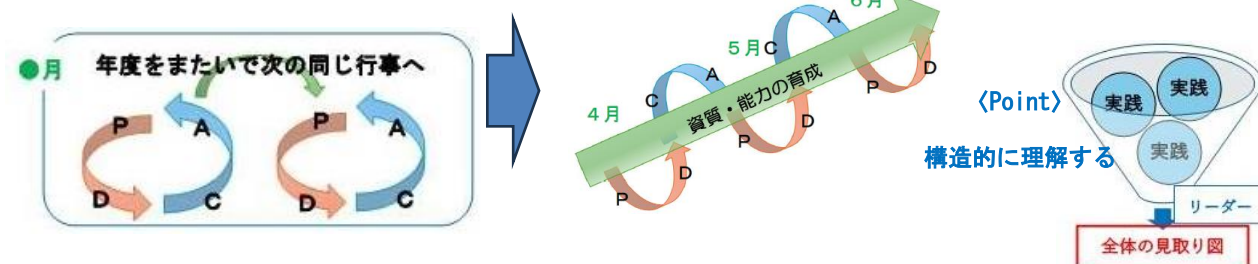
＜例2＞資質・能力を柱とした行事づくり

学校教育目標の達成に向け、教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図ることが大切です。教科等の指導だけにとどまらず、学校行事への取組についても不断に見直し、よりよい教育課程の編成に努めていくことが求められています。PDCA（Plan Do Check Action）の視点を持ち、教育課程について校内で見直しているかと思えます。

これまでは、年度をまたいで同じ行事の見直しを行うことが多かったと思います。それぞれの行事の目的が設定されており、見直し等を行ってきました。各学校で育てたい資質・能力を行事の柱とし、異なる行事がPDCAサイクルで繋がることでカリキュラム・マネジメントの視点での改善を図ることができます。

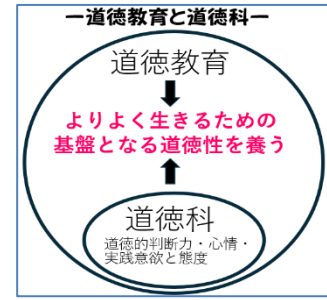
【各行事を単独としたPDCAサイクル】

【資質・能力の育成を柱とした行事のPDCAサイクル】



道徳教育と「特別の教科道徳」（道徳科）

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」）を要として教育活動全体を通じて行うものです（各教科における道徳教育推進上の配慮事項は、学習指導要領解説総則編で確認してください）。例えば、行事の振り返りで「協力の大切さに気付かせた」、集会で「思いやりのある活動が見られた」などは、教科領域のねらいに即した活動の中で行う道徳教育です。道徳教育の要の教科である道徳科は、以下のような学習内容になります。



道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

1 道徳的価値そのものがどういうものかを理解できるようにする

資料などをもとに、特定場面における主人公の行為や判断、心情の良し悪しを話し合うことを通して、より望ましい判断や行為、考え方がどのようなものかを、児童生徒自身が感じ取れるようにします。

2 道徳的価値を自分の生活とのかかわりの中でとらえられるようにする

その行為や判断が今までの自分の生活の中でできてきたかどうかを、資料からはなれたところで振り返らせます。

3 今後の生活で高い価値に基づいた行動を行うための自分の課題を自覚できるようにする

今後、より高い価値観に基づく行為や判断ができるようになるためには、自分自身の生活の中でどのようなことに気が付いたらよいのかという「自己課題」をもたせます。

道徳科の内容項目とは？

学習指導要領にあげられた内容項目は、児童生徒が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で表現したものです。A、B、C、Dの4つの視点で、発達段階に応じて19項目～22項目にまとめられています。これらの全ての内容項目を、年間35時間（小学校1年生は34時間）の道徳科で適切に指導しなければならないとされています。年間指導計画通りに進められているか、時数は足りているか、内容項目に偏りがいないか、確認してください。

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の具体的なあらわれ

【道徳的判断力】

それぞれの場面において善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

- ・〇〇すること（行為）は、～な理由（ものの見方・考え方）だからいいんだ。
- ・〇〇すること（行為）は、～な理由（ものの見方・考え方）だからよくないんだ。
- ・Aの考え方（行為）より、Bの考え方（行為）が～な理由（ものの見方・考え方）だからいいな。
- ・Aの考え方（行為）より、Bの考え方（行為）が～な理由（ものの見方・考え方）だから納得できないな。
- ・私がしていた～（行為）は、価値のある行為なんだ。

【道徳的心情】

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情。道徳的行為への動機として強く作用する。

- ・〇〇な心（行為）をすると気持ちがいいな。
- ・〇〇な心（行為）はよくないな。
- ・〇〇のような心をもちたいな（もてるといいな）。
- ・〇〇さんのような気持ちになれる（行為ができる）のはすてきだな。
- ・どうしたら〇〇な心もてるようになるだろう。

【道徳の実践欲と態度】

道徳的心情や道徳的判断力を基盤として道徳的価値を実現しようとする意志の動きであり、それらに裏づけられた具体的な道徳的行為への身構え。

- ・（いいと思うことを）何かやりたいな。
- ・（いいと思うことを）やってみよう。
- ・～できるようにになりたいな。
- ・〇〇さんみたいな行為ができるようになりたいな。

※参考文献

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 文部科学省
佐賀県教育センター HP (H15の研究) より一部引用